

※文中数字120は『早覚え速答法』の120ページを、123は『早覚え速答法』マニュアルの123ページを示す。

【出典】慮文昭(ろぶんしょう)『抱経堂文集』より。慮文昭(1717年～1795年)は清朝の人。科挙(高級官僚登用試験)の合格者だが、政治行政にたずさわらず、古典研究と教育に従事して一生を終える。蔵書家として知られ、経典(けいてん…古典)をだき抱える「抱経先生」と称された。

【書き下し文】※音読のためルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

荷宇(かう)は生まれて十月(じゅうげつ)にして其の母を喪(うし)な(ふ)。知有るに及び、即(すなわ)ち時時(じじ)母を念(おも)ひて置かず、弥(いよいよ)久しくして弥(いよいよ)篤(あつ)し。其の身(み)の一日(いちじつ)として母に事(つか)ふる能(あた)はざるを哀(かな)し(む)なり。母の言語動作も亦(また)未(いま)だ識(し)る能(あた)はざるを哀(かな)し(む)なり。

荷宇は香河(こうが)の人なり。嘗(かつ)て南に遊びて反(かえ)るに、錢唐(せんとう)に至る。母の来前するを夢(ゆめ)み、夢中(むちゆう)に即(すなわ)ち其の母為(た)るを知るなり。既に覺(さ)め、乃

(すなわ)ち噉然(きょうぜん)として以(もつ)て哭(く)して曰(い)わく、「此(こ)れ真(ま)ことに吾が母なり。母よ、胡為(なんす)れぞ我をして今日(こんにち)に至りて乃ち見るを得しむるや。母よ、又た何ぞ我を去ることの速やかなるや。母よ、其れ我をして此(こ)を継ぎて見るを得(え)しむべけんや。」と。是(こ)に於いて夢に見る所に即して之(これ)が図(ず)を為(つく)る。此(こ)の図は吾(われ)之(こ)れを見ざるなり。今の図は吾之(これ)を見れば、則(すなわ)ち其の母を夢みるの境なるのみ。

余(よ)因(より)て之(これ)に語りて曰(い)わく、「夫(そ)れ人(ひと)の精誠の感ずる所に、幽明死生の隔て無きは、此(こ)れ理の信ずべく誣(し)いざる者なり。況(いわ)んや子の親に於ける、其の喘息(ぜいんそく)呼吸も相(あ)い通じ、本(もと)より之(これ)を間(へだ)つる者有る無きをや。」と。

※「則ち」の上の「見る」について、出題は「見るに」としているが、学習上、「見れば」とした。↓150

【現代語訳】

荷宇は生まれて十か月で母を亡くした。ものごころがつくとすぐにいつも母のことを思い続けてやむことなく、その思いは時間が経つほどますます強くなった。彼は、自分が一日も母に仕えられなか

ったことを悲しみ、母の言葉や仕草も知りえなかったことを悲しんでいる。

荷宇は香河の人である。かつて見聞を広めるために南方に行った。帰る途中、銭唐(せんとう)に着き、そこで見た夢で母が目の前に現れた。夢の中ですぐに自分の母であることがわかった。夢から覚めると彼は号泣して言った。「これは本当に私の母だ。お母さん！どうして、今になってやっと私に会いに来たのですか。それに、お母さん！どうしてすぐに私の前から消えてしまうのですか。さらに、お母さん！これから先、私はお母さんに会えるのですか。そんなの無理でしょう。」そこで彼は、夢に見たとおりに母の絵を画いた。私はこの絵を見たのではない。彼が持ってきた絵は、私が見ると、彼が夢で母を見ている場面にすぎなかった。

私は荷宇に解説してやった。「そもそも、人のまごころが動くとき、あの世もこの世もない。これは信頼できる真理であり、いつわりではない。まして、息づかいが互いに通じ合い、わけへだてがもともとなない親子の関係において、人のまごころが死生を越えて通じることが言うまでもない。」

※訳注

時時—いつも

哭(こく)——大声をあげて泣く

我をして…見るを得しむ——私に(お母さんを)見ることをできさせる↓(意識)↓お母さんが私に会う

又た何ぞ——それに加えてどうして。「何ぞ」が一字で疑問になることは少ない。83参照。

其れ…べけんや——反語。くできようか。いや、できない。

此の図は…。今の図は…のみ。——「今の世はまちがっている！」¹²⁶の「今」があるので、「此の図」より「今の図」を低く評価する意識が働いている。この意識を補って現代語に訳すと次のとおり。

そこで彼は、夢に見たとおりに母の絵を画いた。私はこの絵を見たのではない。(私はこの絵を見たかったのだが、)彼が持ってきた絵は、私が見ると、彼が夢で母を見ている場面にすぎなかった。(ちよつと残念。)

解説 ※¹²⁶は『早覚え』マニュアルの1ページ、126は『早覚え』の126ページ、40.1は問題文40ページ1行目を示す。

筆者の主張をつかむ¹²⁶

【ステップ1】 最初の2行を読む

荷宇は生まれて十月にして其の母を喪(うしな)ふ。…母を念(おも)ひて…弥(いよいよ)久(く)くして弥(いよいよ)篤(あつ)し。…母の言語動作も亦(また)末(いま)だ知識(し)る能(あた)はざるを哀(かな)しむなり。

【ステップ2】 最後の3行を読む

オシリから 読むとわかるよ お結論^三!

により、最後の一文から読むと、

況(いは)んや子の親に於(お)ける、其の息づかい^{注7}も相(あ)ひ通じ、これを間(へだ)つる者有る無きをや。

「況(いは)んやをや」は抑揚¹²⁵なので、「ましては当然だ^三」という訳が問われることを予想しつつ、

【ステップ3】 最後の問7を見る

問7(ヲヤ)

「まして」の訳がある①③⑤にしぼる。次に、「三つのステップで共通する言葉」^三を探すと、

⑤母に対する…思い

荷宇は…母を念(おも)ひ^三 || 母に対する荷宇の思い

③母の思い

となり、⑤が正解か。

「結論は最後に来る」^三から、主張の要点は、末尾の原文「子の親に於ける(関係では)…へだつる者が有る無き」だろう。そして

有る無き || 有ること無き || 無し

だから、「子と親の間にはへだてるものが無い」が主張だろう。これで十分。これが大事。ここで最初にもどる。

問1(1)(漢)(熟)

波線の次の「即(すなわ)ち」は重要漢字で、訳は「すぐに」¹⁴。すると1行目は、

荷宇は生まれて十月にして其の母を喪(うしな)ふ。知有るに及び、(すぐに)…母を念(おも)ひて

となる。

次に「知」について、「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ!」^三により、上下がほぼ同じ意味の熟語「知識、知覚、認知」などを作って1行目にあてはめてみる。いま、「知識」をあてはめると、

荷宇は生まれて十月にして其の母を喪(うしな)ふ。知識有るに及び、(すぐに)：母を念(おも)ひて

ここで「知識有る」に近い選択肢を探すと、⑤「ものごころがつく」が正解だろう。

②「教育を受ける」は、

②「教育を受ける」と↓「知識有る」状態になる

という原因・結果の関係であり、

⑤「ものごころがつく」⇐「知識有る」

という近似の関係より劣る。

なお、出題者は「知」の熟語「知恵」により次のようにして正解を作ったのではあるまいか。

知恵有るに及(およ)ぶ

←

知恵がつく

← 二字熟語を他の言葉に言い換えて受験生の目をゴマカス

⑤ものごころがつく

ここで「知恵」が上下がほぼ同じ意味の熟語であることを説明しておく。

「知恵」は日本独自の熟語であり、中国語では「智慧(ちえ)」と記されるが、

知⇐智⇐知っている 恵(けい)⇐慧(けい)⇐かしこい
なので、

「知⇐恵」「智⇐慧」

となり、中国語の「智慧」だけでなく日本語の「知恵」も上下がほぼ同じ意味の熟語である。したがって「知」を「知恵」に変形して作った選択肢⑤は、「傍線部中の漢字を上も下も同じ意味の熟語にする」¹⁷⁰⁻¹⁷¹という翻訳の原則からはずれていない。

他の選択肢について。

①「世に知られる」は熟語「周知」から、④「知り合い」は熟語「知己」「知人」から作った選択肢だが、次に示すように、どの熟語も、上下同じ意味ではない。

「周(あまね)く知られる」「己(おのれ)を知る」「知っている人」

問3(熟)

「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」¹⁷⁴により、傍線部の漢字を上下ほぼ同じ意味の熟語にしてみる。

「時時」の「時」の熟語は「時刻、時点、時間」などだが、「時時」を「時刻時刻、時点時点」としてみても意味がわからないので作業中止。

次に「置」を熟語にしてみると、「設置、放置、留置…」。原文は「不置…置かず」なので、否定の「ない」を付けて熟語を訳すと、

設けない 放さない 留(とど)めない・留まらない

これを「不」の訳である「ない」を含む次の三つの選択肢

- ①やむことがない
- ③いたたまれない¹¹がまんできない
- ⑤言わず(ない)

と照合すると、

留(とど)まらない¹¹とまらない

—

①やむことがない¹¹やまない

となり、**正解は正確な訳で作られる**¹¹ので①が正解だろう。

なお、「時時(じじ)」は「常に」という意味だが、受験生が知っている必要はない。

問4(対比)(漢)

傍線Bは漢字の羅列なので読めない。そこで傍線Bの下を見ると、傍線部の「哀」と同じ「哀」から文が始まるので、

対比に注意!¹¹²

で解く。傍線Bと次の文は、

B 哀○○也

哀◎◎也¹¹²

という対比であり、○○と◎◎は違うが、文の構造は同じ。すると、

「くを哀しむなり¹¹³」という読み方をBもしているはずなので、⁵選

択肢は③と④。あとは、重要漢字「事」¹¹⁴の読み「事(つか)ふ」のある④が正解。

問1(2)(熟)(注)

「遊」とほぼ同じ意味の漢字を付けて熟語にしようとしても、「浮遊、遊興」などしか思いつかない。

日本語の「遊ぶ」から想像すると、①「仕事もせず¹¹⁵にぶらぶらして」が正解かもしれないが、問われているのはあくまでも漢語「遊」の意味だ。すると、①の「仕事もせず」という意味は「浮¹¹⁶遊」の「浮」からも「遊¹¹⁷興」の「興」からも出てこない。

同じように、②「派手」、③「避け…隠れ」、⑤「低い」も正解ではないだろう。

そこで、④「故郷を離れ遠方の地を訪ねて」が「遊」の意味かどうかを確認する。熟語が思いつかないので、

説明・注で正解つかめ¹⁷⁶

により、注2を見ると、「錢唐」が、荷宇の故郷である「香河からは千キロメートルあまり離れる」とある。これを使って原文を読むと、

南に遊びて反(かえ)るに、故郷「からは千キロメートルあまり離れ」^{注2}た錢唐に至る。

この文の「遊」に④を代入すると、

南(の方)に「故郷を離れ遠方の地を訪ねて」^④反(かえ)るに、故郷からは千キロメートルあまり離れた錢唐に至る。

これを図示すると、

河↓↓↓↓↓
香―千キロ―錢唐↑反(かえ)る↑南

となり、話の筋に無理はないので、これが正解だろう。

なお、化学用語で「遊離」という熟語があるので、化学を勉強した受験生は、「遊離」の「離」を残した④はヒツカケではないか? と思ったかもしれない。

しかし、センター試験の出題は平等でなければならないので、出題者は、化学を履修せず「遊離」という熟語を知らない受験生を念頭において問題を作成している。

さらに、出題者は注2によって正解を④に誘導していると思われる。したがって、④の正解はゆるがない。

知識のゆえに迷った時は、本書に掲載した別のルートも使ってください。

なお、④「訪ねて」という意味は「遊」にはないが、注2で出題者の意図がわかるので、気にしない。

また、「遊」はもと「游」。シは水をあらわすので、「水の中で泳ぐ、ゆらゆらする」などの意味。

問2(漢)

重要漢字「即(すなわ)ち」¹⁷⁶の訳は「すぐに」、「乃(すなわ)ち」の訳は「かえって、そこで」なので、正解は①。

問3(シテ)(熟)

選択肢を見てその共通部分を除くと、問題となる漢文は次の四字。

使我：得見

使役の公式²⁾により次のように変形できる。

←使 A B (AをしてBせしむ)

← A に B させる A ∥ 我 B ∥ 得見

← 我に 得見させる

← 私に 見ることが出来る(ように)させる

私に (あなたを)見ることが出来る(ように)させる

ここで「1字の漢字は熟語で訳せ」³⁾により、「見」とほぼ同じ意味の漢字で熟語を作ると、「会見」という熟語において、「会≠見」。すると訳は、

私に (あなたに)会える(ように)させる

しかし、「私」に「あなた」に「に」では、「に」が繰り返されて読みにくい。そこで、

私[←]があなたに会う

← あなたが私に会う

と変形する。ちよつと苦しいが、私[←]があなたに会っても、あなたが私に会っても、「二人が会う」ことに代わりはないので、大目に見る。すると、

私に (あなたに)会える(ように)させる

← (あなたが)私に 会ってくださる④

他の選択肢について検討する。

②は使役の訳「させ(る)」があるが、原文の「見」は②の「来」と熟語を構成しないので、②は誤訳。センター試験は、一つのルールだけで解こうとする者を、このようにしてヒツカケる。

問6(漢)(注)(熟)(主張)

「此(こ)の」⁴⁾は指示語だから、直前を受ける。直前を訳すと、是(こ)に於いて夢に見る所に即して之(これ)が図を作る。⁷⁾

重要漢字「於是…是(こ)に於いて」¹⁾⁶⁾の訳は「そこで」。「之(これ)」⁴⁾は指示語だから、直前を受け、その内容は「母」だろう。

「図」⁴⁾⁷⁾は、「説明・注で正解つかめ」¹⁾⁶⁾により、第4問の説明文「次の文章は…一枚の絵」から「絵」とわかる。すると訳および訳に適合する選択肢は次のとおり。

訳…そこで、夢に見る所に即して母の絵を作る

選択肢… 夢に現れた母の姿が描かれた絵③④

次に「其(そ)の」は指示語だが、直前を見ても内容をつかみにくい。しかし③④で「荷宇」とわかる。「而已」^{而已}は重要漢字¹⁵⁷で「のみ」^{のみ}だけ。「境」^境は熟語で訳してみると「境地・環境」か。すると原文と訳は次のとおり。

原文・其の母を夢みるの境なるのみ

直訳・荷宇が母を夢みるの境地・環境であるだけ

次に、訳の一部「荷宇が母を夢みる境地・環境」について③④と対照すると、

③ 荷宇が母の夢を見る場面

荷宇が母を夢みる境地・環境

④ 荷宇が夢を見た土地の風景

④は「夢を見た」であり、「母の夢をみた」となっていない。③の「場面」は「境地・環境」の変形として許容範囲。

正解は正確な訳から作られる¹¹⁹

という原則に照らすと、③の勝ち。

なお、解答時間がなく精密な翻訳作業ができないときは、最初の作業でつかんだ筆者の主張「子と親の間にはへだてるものが無い」⁴¹により、「母(親)」のある③を選んでよい。本文の主張を問う

のが出題者の最終意図なのだから、主張から選べる選択肢は正解確率が高い。

ここで、「今」^今があるから「今の世はまちがっている!」¹¹³は使えないのか、という声が聞こえるが、この問題では「使うまでもない」と答えておく。

筆者は、「今の図はまちがっている!」と非難するほどではないが、D「此の図」とE「今の図」を比較して、「今の図は価値が低い」と述べている。この点については、全訳を参照してじっくり理解してください。

問7

最初の主張をつかむ作業で③と⑤にしぼった後、問題文を読み進めていくと、「母よ!」^母が三度登場するあたりから、③「子に対する母の思い」ではなく、⑤「母に対するあなた(荷宇)の思い」が正解であるとわかる。

以上